

和歌山県有田郡広川町

津木地区寄合会の運営、特産品開発、情報発信、イベントを共に考える



【地域の基礎データ】

人口：6,943人（令和元年12月末現在）

高齢化率：32.9%（平成31年1月1日現在）

産業：農林業、漁業、製造業 など

【活動の基本情報】

参加学生数：14名（1回生：4名、2回生：4名、3回生：4名、4回生：2名）

活動期間：平成26年6月～

担当教員：永瀬節治

1. 活動実施の経緯

本LIPでは、広川町津木地区の活性化に取り組む津木地区寄合会（以下、寄合会）の活動を平成26年度より支援している。これまでに、「ツギー谷のお花畑」におけるイベントの企画運営や、地域内外の出店イベントでの加工品の販売などを、寄合会と連携しながら実践してきた。また昨年度からは、日本遺産「百世の安堵 ～津波と復興の記憶が生きる広川の防災遺産～」の認定を契機に、広川町の中心部にあたる広地区での活動にも参画している。

2. 活動の内容

今年度は津木地区の活動拠点である「ツギー谷のお花畑」が一昨年の台風被害や施設の老朽化により使用できない状態となり、8月の合宿の他は津木地区外での活動が中心となったが、毎週定期的にミーティングを行いながら、新たな取り組みを検討した。

広川町ふるさと祭り、市駅“グリーングリーン”プロジェクト、大学祭での出店を継続するとともに、今年度は10月の「稲むらの火祭り」で使用する稲むらづくりにも参加した。また11月には、広川町の日本遺産の魅力を発信する古民家体験イベントの一環として、浜口梧陵ゆかりの歴史的建造物「耐久社」において、津木地区の特産品（お茶、鯖めし）や町内のベーカリーの商品を活用した「耐久かふえ」の運営にも新たに取り組んだ。

3. 活動を通じて

6年目を迎える本LIPでは、新たな取り組みが開始される一方で、本来の拠点である津木地区での活動のあり方が課題となっている。お花畑は来年度から再開される予定であり、3月の報告会等で寄合会関係者と意見交換を行いながら、今後の活動の方向性を見定めたい。

4. 成果物など



和歌山大学観光学部
広川町 Local Internship Program
 一津木地区寄合会の運営、特産品開発、情報発信、イベントを共に考える一



広川LIPの活動について

私たち広川町LIPは、広川町津木地区の「魅力発見」と「魅力発信」を目的に活動しています。津木地区寄合会の方々と連携して2014年から活動を続けています。今年で6年目になる広川町LIPは、今年度は1回生2名、2回生4名、3回生4名、4回生3名の計13名で活動に取り組んできました。主な活動内容としては、広川町で行われている行事への参加や、広川町や津木地区のPR・特産品販売です。これらの学外での活動以外に、広川町への理解を深めLIPの活動をより良いものにするため学内で毎週会議を行っています。

Where is Hirogawa town?



広川町は和歌山県中部に位置し、海・山・川という自然に恵まれた地域です。観光客は、春は桜、初夏にはホテルの美しい光景を眺め訪れます。沿岸の地域は、津波防災に関する「稲むらの火」や濱口梧陵ゆかりの地として知られており、近年は「日本遺産」に認定され、注目を集めています。

2019年度 スケジュール

- 5.25 津木地区訪問
- 6.26 津木地区総会に出席
- 8.21-22 夏合宿
- 10.14 稲むらの火祭り 準備
- 10.19 稲むらの火祭り
- 10.22 市駅GPPで出店
- 11.4 広川町ふるさと祭り
- 11.16 耐久かふえ
- 11.23 大学祭で特産品販売
- 3月 津木地区で活動報告会

2019年度活動報告

夏合宿 広川町津木地区への理解やメンバー・地域の方との親睦を深めるために、広川町の農家民泊を利用して合宿を行いました。一日目の昼は、広川町にある文化財「耐久社」の見学、夜には「プライベートバー津木」で交流会を行いました。交流会では地域の方や行政の方に参加していただきました。二日目には民泊でお世話になった方のもとで農作業の体験をしました。交流を通して地域の方々が持つ広川町への熱い思いを知り、私たちLIPは地域のために自分たちができることから取り組んでいこうという思いを一つにしました。



左：『夏合宿 プライベートバー津木』 / 右：稲むらづくり

稲むらづくり 安政大地震によって広村を津波が襲った際に、稲むらに火を放ち村人を避難させたという濱口梧陵の物語があります。広川町では、この濱口梧陵の功績を称え継承するとともに、市民の防災意識を高めるために、「稲むらの火祭り」を開催しています。昨年度は参加するのみでしたが、今年度は祭りの準備にも携わることができました。稲むらは燃えやすいように改良されており、精密に作られた設計図のもと作っていききました。祭りを担う人々が、高齢化が進み若い人の力が少ないためこのような準備も一苦勞だという地元の方のお話を聞きました。地域のイベントを支える活動として来年以降も続けていきたいと考えています。

耐久かふえ 2019年11月に広川町で開催された、吉良家体験イベントにおいてイベント限定のカフェを行いました。夏合宿で見学した奥指定史跡の文化財である「耐久社」を使って行いました。普段は開放されていない内部を知ってもらうことと共に、広川町や津木地区の特産品をPRすることを目的に行いました。広川町のバン屋さんと連携し名物のおげパンや、津木地区寄合会の特産品であるサバ飯と薬草茶の販売を行いました。SNS等による宣伝により客足が伸び、たくさんのお客さんに来ていただくことができました。様々な課題も残りましたが、広川町役場の方と連携して行うことができたことや、イベント企画運営を一から自分たちでできたことは、とても貴重な経験になりました。



左：『耐久かふえ』 / 右：『市駅GPPの出店ブース』

市駅GPP出店 南海和歌山市駅近くの紀の川河川敷で行われた市駅GPP（“グリーングリーン”プロジェクト）で出店しました。今年度は地域の特産品販売だけではなく、体験ブースでシャボン玉アート体験を行いました。内容は、大きなシャボン玉づくり体験と色付シャボン玉を使った果づくり体験で、たくさんのお客さんが楽しんでくれました。さらに、津木地区のことを少しでも知っていただけるよう、パネルも設置しました。自分たちが津木地区について知っていることをお客さんに伝えることで、多くの人が津木地区について興味を持ってくださいました。

Instagram : @hirogawa_lip #inamura_fire

